

# 盛岡を代表する工業は ここに始まった

城下町盛岡  
その街の発展とともに培われた  
技術と品質は  
今も色あせることは無い



万治2年（1659）京都から御釜師小泉五郎七清行を呼び、茶の湯釜を作ったのが南部鉄器の始まり。南部鉄器は南部の殿様の保護のもとで発達。現在の南部鉄瓶の形が出来上がったのもこの時代で、南部家に召抱えられていた3代御釜師小泉仁右衛門清尊が創案したものとされています。

今日、鉄瓶は鉄分を補給し、おいしい日本茶や紅茶を入れる道具として国内だけでなく欧米へも輸出されています。また、街灯やサインなどのストリート・ファニチャーとしての評価も高く、伝統工芸品としての価値が見直されています。

昭和50年（1975）、国の伝統的工芸品、第1号指定。  
(もりけん本、南部鉄器より抜粋)

